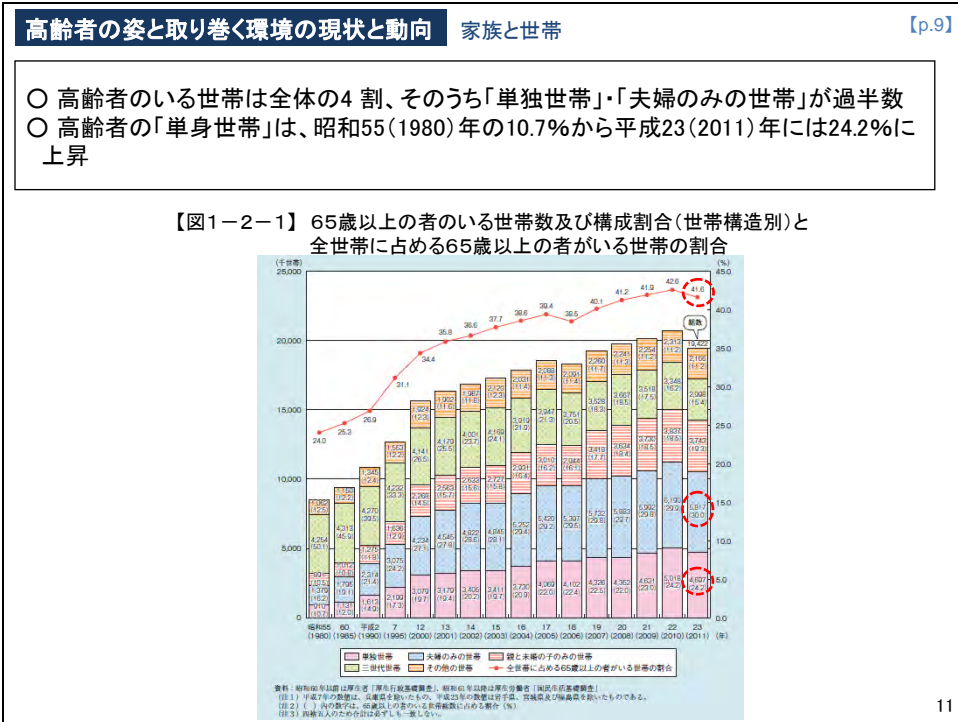


<家族と世帯>

まず、資料の 9 頁でございます。これは、65 歳以上の方がいらっしゃる世帯の数と世帯構成、それから全世帯に占める 65 歳以上の方がいる世帯の割合でございます。

高齢者の方のいらっしゃる世帯は全体の 4 割となっております。それは、折れ線グラフを見ていただければよろしいかと思えます。また、「単独世帯」・「夫婦のみの世帯」の平成 23（2011）年の数と割合を点線で囲っております。「単独世帯」・「夫婦のみの世帯」を足したものが高齢者のみ世帯でございますが、これが過半数になっております。また、高齢者の「単身世帯」は、棒グラフの一番下の部分でございますが、昭和 55（1980）年は 10.7%でしたが、平成 23（2011）年には 24.2%とかなり上昇しております。

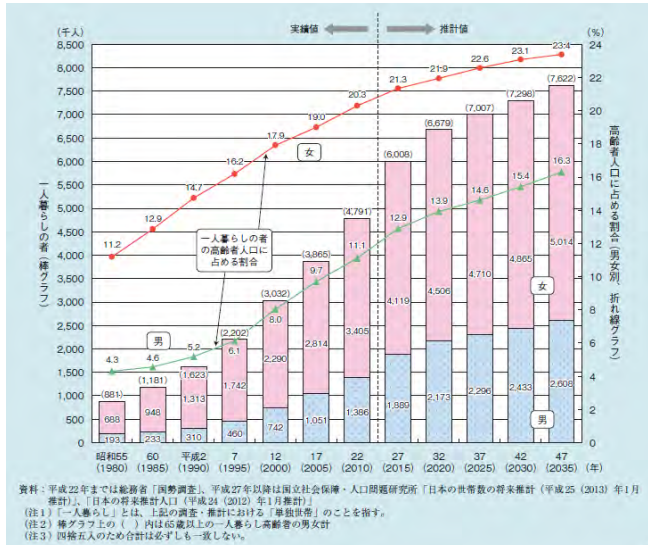


次は、資料の 10 頁です。「一人暮らしの高齢者の動向」でございます。

グラフを見ていただきますと、一人暮らしの高齢者の増加は男女とも顕著ということが分かるかと思えます。折れ線グラフは上（マーカーが丸印のもの）が女性、下（マーカーが三角印のもの）が男性の割合を示しておりますが、昭和 55（1980）年に比べて急激に増加しており、今後も増加を続けるということが予測されております。

○ 一人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著

【図1-2-2】一人暮らし高齢者の動向



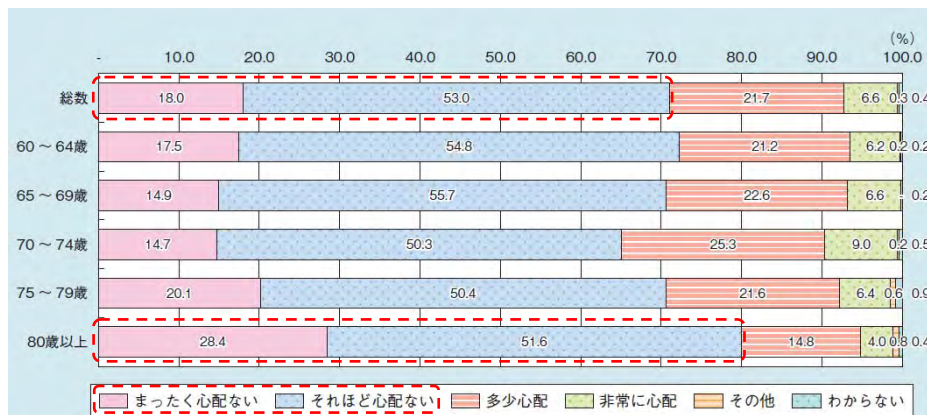
< 経済状況 >

次は資料の 11 頁です。ここでは、高齢者の経済状況について分析したものでございます。

これは、60 歳以上の高齢者のうち、暮らし向きについて聞いたものでございますが、帯グラフの一番左側が「まったく心配ない」、次が「それほど心配ない」という方の回答の割合でございます。総数ですと、暮らし向きについて、「まったく心配ない」と「それほど心配ない」と考えていらっしゃる方が約 7 割でございます。これは一番上の帯グラフで、点線で囲った部分でございます。帯グラフの一番下、これは年齢別に見た 80 歳以上の方の割合でございますが、80 歳以上になりますと、いま申し上げた割合が約 8 割というふうにも上昇し、高いものになっています。

○ 60 歳以上の高齢者のうち、暮らし向きについて「まったく心配ない」または「それほど心配ない」と感じている人は約 7 割、80 歳以上では約 8 割

【図1-2-3】高齢者の暮らし向き

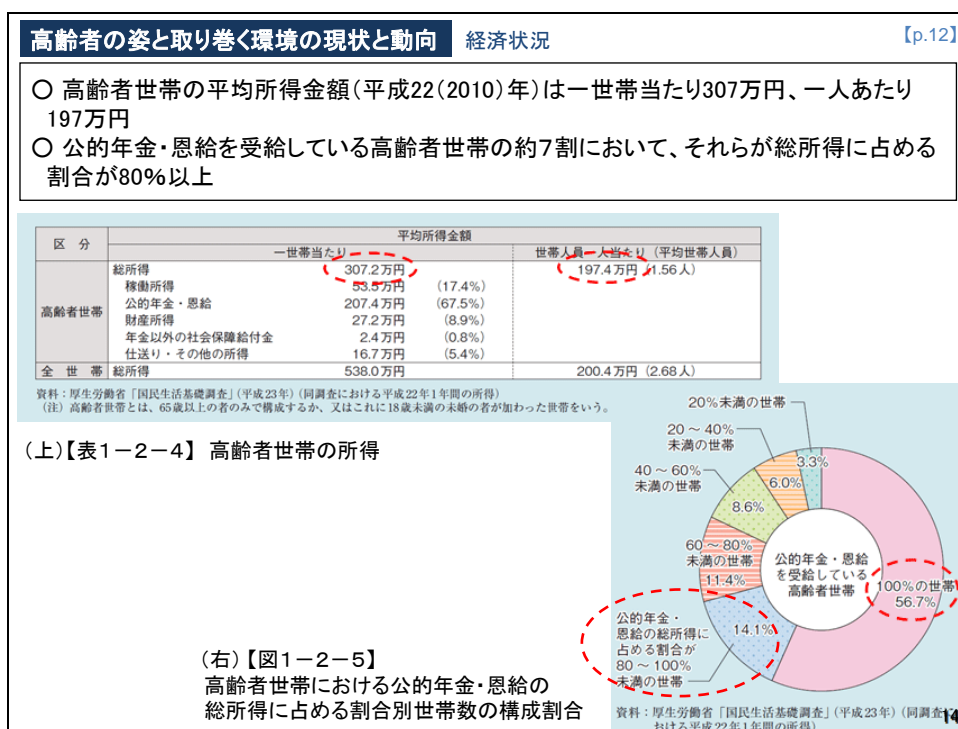


資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」(平成 23 年)  
 (注) 対象は 60 歳以上の男女

それから、次は資料の 12 頁でございます。これも高齢者の方の経済状況で、高齢者の方の平均所得金額についてのデータでございます。

平成 22 (2010) 年の一世帯当たりの平均所得金額と、世帯人員一人当たりの金額を示したものでございますが、一世帯当たりですと 307 万円、世帯一人当たりですと 197 万円となっております。

右の円グラフが、高齢者世帯における公的年金・恩給が総所得に占める割合別にした世帯数の構成割合でございますが、公的年金・恩給を受給している高齢者世帯のうち、公的年金・恩給の総所得に占める割合が 100%の方が 56.7%でございます。また、公的年金・恩給の総所得に占める割合が 80~100%の方で 14.1%いらっしゃいます。ですので、高齢者世帯の約 7 割が年金・恩給の総所得に占める割合が 80%以上という状況でございます。



続きまして、資料の 13~14 頁でございます。これは、貯蓄状況についてのデータでございます。

世帯主が 65 歳以上の世帯の平均貯蓄額、これは平成 23 (2011) 年のものでございますが、これは全世帯平均の約 1.4 倍となっております。左の方でございますように、全世帯平均ですと 1,664 万円でございますが、65 歳以上の平均が 2,257 万円となっております。

下の帯グラフは貯蓄の目的でございますが、62.3%の方が「病気・介護の備え」とお答えになっております。